

南の窓

136号

甲府市中小河原町
山梨県立甲府南高校
PTA事務局発行
241-3191(代)

輝け、第五十二期卒業生

本日三月一日、第五十二回卒業証書授与式が行われます。高校三年生の課程を修了し、卒業証書を手にするのは、普通科二百二十五名、理数科四十一名、計二百六十六名です。「Pioneer Spirit」のもと、自ら人生を切り拓き、大いなる活躍を期待します。

卒業によせて

担任からのメッセージ

一組 水谷 繁
『どの道も正解』
正解の道を選ぶのではなく、選んだ道を正解にする。その道を正解にするかどうかは君たちの努力次第です。これからは本当の勝負だぞ！ 体に気をつけて頑張ってください。
卒業おめでとう！

二組 数野 優

卒業おめでとうございます。ここから先は、これまでにない自由な世界が広がっています。知らなくてはいけない世界や知らないほうがいい世界など、いろいろなものが存在します。自分で取捨選択し、後悔のない人生を歩んでください。

三組 渡邊 晃

これ以上無理だ。もう立ち直れない。一生懸命やった上での「挫折」が真の強さと優しさという人生の深いスパイスを生み出す。卒業、おめでとう。みなさんの果敢な挑戦を期待しています。

四組 佐藤 慶一
いつかまた会うときも笑顔で！

五組 角田 恵一
卒業おめでとう。

六組 佐野 大輔
目標のないところには努力というものは存在しません。目標があるからどのような苦難にも耐えられます。大小に関わらず常に目標を持った人生を送り、成長を続けてください。

七組 中島 奈美
卒業おめでとう。

There is no man living who isn't capable of doing more than he thinks he can do.
アメリカの自動車王「ヘンリー・フォード」の言葉です。皆さんが自分の可能性を信じて活躍することを願っています。

「心は行動となり、行動が運命を決める」

PTA会長 岩沢 正敏

卒業生の皆さん、おめでとうございます。甲府南高校の三年間が皆さんの社会人(大学生)への出発点となります。卒業から出発へ、自分の考えは出来ていますか？ まずは考え、それをことばに出して下さい。宣言したら目標に向かって行動を起こして下さい。
一年の行動計画、十年計画な

ど目的達成のための行動を習慣化することが必要です。習慣となった自分の毎日、毎日の行動の繰り返し、あなた達の生涯の人格を作り上げて行くのです。学校の教職員の皆様、同窓会役員の皆様、そして保護者の皆様、卒業生は皆様に見守られて三年間を過ごして来ました。そして、卒業して行きます。本



当にありがとうございます。ごさいました。「かがやくよかがやくよ われらが未来」南高の校歌にあるように、あなたたちの未来ががやく「運命」であることをご祈念申し上げます。
結びに、今年度のPTA活動にご協力いただいた多くの関係者に感謝申し上げます。

真善美を問う人生を

校長 星野 真理

第五十二期生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは本校に入学して以来、それぞれの目標や夢に向かって学業に励み、また、様々な活動において、お互いに切磋琢磨し、積極果敢に挑戦し、努力を積み重ねて本日を迎えました。これからも、校訓「開拓者精神」を胸に、進取の気を尊び、理想を目指して人生を歩んで行くことを期待しています。また、皆さんを支え慈しんでくださったご両親や周囲の方々に感謝することも忘れないでください。

皆さんが、これから生きていく社会は、さらなる科学技術の進歩により大きく変化するとともに、仕事や生き方も変わっていくと思います。よりよい世界を創っていくために、知識のみならず思考力や判断力、そして協働が求められます。その中で、本校の校歌に歌われている「真善美」とは何か、その高きを求めるとはどういうことか、常に問い続けてほしいと思います。
三年生の保護者の皆様におかれましては、子ども達の巣立ちを



意味する高等学校の卒業は、感慨もひとしおのことと思います。ここから先の道は子ども達が自分で切り拓いていくことになりま。皆様の三年間の本校へのご理解とご協力に感謝いたしますとともに、成長した生徒達が大きい世界に羽ばたくのを職員一同楽しみにしております。
結びに、卒業生の皆さんが常に高い志を抱き、美しき世界をのぞみ、その未来を輝かせることを心から願います。

第五十二期の卒業を祝して

三学年主任 石原 治人



第五十二期生の皆さん、卒業おめでとうございます。まだ中学生のあどけなさを残る皆さんが、晴れやかな表情で入学してきた日をついこのうのように思い出します。学年カラーの真っ青な青空のように爽やかな皆さんの顔つきが、いつしか大人の顔つきに変わり、本校を巣立つ日を迎えたことに私自身感慨もひとしおです。

この春、皆さんは自分の選んだ道を歩んでいきます。皆さんの進んでいく進路が、たとえ第一希望でなかったとしても、思いがけず選んだ進路であったとしても、その選択が正しかったかどうかは、これからの人生の中で皆さんが決めていくことです。このあと皆さんが自分とどう向き合い、与えられた環境の中でどう取り組むかで答えは変わってくると思います。この選択が正解であったと十年後、二十年後に心から思えるように努力を積んでいってください。

私は生きるための原動力は「感動すること」だと思っています。それが何であれ、たくさんの感動をすることが人生を豊かなものにするのです。人生の岐路に立ち、進路に向かって一途に努力を続ける五十二期生の皆さんの真剣な顔つきは私に大きな感動を与えてくれました。私は皆さんのひたむきに努力する姿にいつもたくさんの元気をもらっています。一途に何かに打ち込み、何かを一心に目指す姿は人に大きな感動を与えます。たとえ望んだ結果が得られなかったとしても、それは決して無駄にはならないし、涙が溢れるような感動を覚えることだってあるに違いありません。たくさんの感動と出会い、同時に人にも感動を与えられる人で有り続けてください。

末筆となりましたが、三年間、子どもたちの成長を陰になり日向となり支えてくださり、様々な面で御支援・御協力をいただきました保護者の皆様に感謝いたします。このたびのお子様のお晴れの門出を心よりお祝い申し上げます。卒業生の皆さんと保護者の皆様の末永い御健康と御活躍を切に願っております。



「高校時代が晩年までの生き方を決める」

三学年委員長 鈴木 浩文



「学校での勉強が自分の将来にどう役立つのだろうか?」日々勉強しながら、難しい問題を解きながら、誰しもが何度も考えることだと思います。大学や専門学校に行くに専門的な勉強が多くなりませんが、大学受験まで皆さんは様々な教科を万遍なく学びます。実際大人になると出くわさない教科もありま

す。高校まで学ぶ教科は、ほとんどが答えのある(正解のある)勉強です。では何故、高校までは興味の有る無しに関わらず、いろんな教科を勉強するのでしょ

うか? それは大人になると毎日、正解の無いいろいろな問題に遭遇するからです。その時により正しい判断が出来るように、また将来の自分の可能性を広げるために、基本的ないろんな知識を得ておくのが高校までの勉強なのです。

そして、地域との絆を深めるのが小中学校時代とすれば、親友という個々の人間関係を築くのが高校時代です。

二次情報(テレビ、新聞、インターネット)より、一次情報(自分で直接体験・経験して感じたこと)を大事にしてほしいと思います。「聞いたことは忘れる。見たことは覚える。やったことは理解できる。」と言います。自分で見て直接体験して感じたことは、人生でかけがえのないものになるでしょう、自分で正しい判断が出来るように、一日一日を大切に進路に向けて学習や部活動、学校生活を行ってほしいと思います。

無限の可能性を持つ皆さんへ

女性部長 安富 初美



卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。三年前皆さんは、この甲府南高校に入学し新しい友に出会い、共に学び、そして互いに成長する年月を過ごしてきました。自我に目覚め色々な悩み、反発・葛藤があったことでしょう。そのような時に丁寧に指導、ご教授くださった先生方にこの場をおかりして御礼申し上げます。

卒業生の皆さんは十八歳で選挙権を持つことになりました。今までの卒業生にはなかった成人のステップが加わります。このステップは独りの「人」として責任を持つこととともに、親から離れて「社会にかかわっていくこと」を意味します。学校での学びはその為の自主性を育む巣立ちの準備の時間でもありました。

解からないこと、知らないことがあつたら自ら調べる習慣が”辞書を引く”ということであり、新たに出会う人々とコミュニケーションで互いを認め合う場が部活動や学校行事であったと思います。皆さんはこの在学中に身につけてきたね。卒業してもまだまだ学ぶことは多いでしょう、そんな時は気軽に相談できる友垣があることを思い出してください。

最後に、十二社の出版社に断られて世に出ることがなかったかもしれない児童文学作家がいます。多くの困窮と苦難・心労を抱えその環境にも負けずベストセラー作家となつた彼女の名はJ. K. ローリング。長い人生、今までにない障害困難があつたでしょう。でもあきらめず未来に突き進んでください。応援しております。

ミス許し合える関係性を求めて

二学年委員長 植村 武彦



年明け早々にネットに流れた「誤報に福岡市長「大人対応」という記事がありました。これは賭けマージャンで批判された別の市長の事件に關与したように誤解される不適切なネット報道に対して、被害者ともいえる福岡市長が自身のFBに「ドンマイっ!」と絵文字入りで投稿した対応についての記事で、ニュースの続報では、この対応について「一つのミスが許されないギスギスした社会の雰囲気をはぐくんだ」との市長自身の気持ちを報じていましたが、とかくネット上の「炎上」が話題になる今日この頃、ちよびり心が温まるニュースでした。

日常生活においてミスをしまくっている私にとって「ミスが許されない社会」はとても恐ろしいです。自分の居場所がなくなつてしまいませんか。そしてそのように感じている人はきっと私だけではないでしょう。

情けは人のためならず。他人のミスを許せる人であればこそ、自分も許してもらえらるのだと思います。ミスを許し合い、そのミスを挽回するために共に頑張れる、そんな関係性を家庭・学校・職場など身近な社会から築いていけたらいいですね。

「フロンティア スピリッツを胸に」

一学年委員長 伊藤 直純



第五十二期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから皆さんの人生が充実したものになりますよう願っております。

「人生、楽ありや苦もあるさ」で始まる「水戸黄門」の歌をご存知でしょうか。私が子供の頃、この番組を親が見ていたもので、良く耳にしたものです。つい先日、たまたまこの曲を耳にし、聞き入ってしまった程、言葉の重さを感じてしまいました。今の日本の土台を造られた時代の言葉、また南高校の精神「フロンティア スピリッツ」に値する言葉だと勝手ながら感じ、特に印象に残った言葉を送りたいと思います。

「人生、勇気が必要だ くじけりや誰かが先に行く あとから来たのに追い越され なくのが嫌ならさあ歩け 人生、涙と笑顔あり そんなに悪くはないもんだ 何にもしなないで生きるより 何かを求めて生きようよ」

南高校で学んだ「自信」と踏み出す「勇気」が皆さんを支えてくれると思います。『いざ フロンティア スピリッツを胸に!』

「友」というもの

二学年主任
兩宮 真哉



第五十二期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは三年前、この南高校で新たな生活を始めたとき、どんな気持ちでいたでしょうか。「胸をわくわく」ときめかせる一方で、「どうしていいこうか」と不安もあつたでしょう。その不安を払拭し、頑張る力を与えてくれたのが、「友」だったのではないのでしょうか。

一人では、解決できなかった問題も、「友」と「みんな」で取り組むことで解決できた。一人ではくじけそうになつてしまつたとき、「友」と「みんな」で「やることで、もう一踏ん張り頑張る力が湧いてきて、やり遂げた。楽しい事を「友」と「みんな」で分かち合えばもっと楽しくなる。悲しみや苦しみを「友」と「みんな」で分かち合えば少しでも楽になる。「友」と「みんな」でという事は、多くの事を与えてくれたのではないのでしょうか。

ともに頑張つた「友」との関わりの中で、築き上げてきた力は、それぞれの道に進んでも、発揮されることでしょう。それとともにそういつた「友」は、これからの長い人生において、かけがえのない存在となるでしょう。これからの新たな道でも、かけがえのない「友」を作り、皆さんの人生を豊かなものにしていくってください。

最後に、皆さんのこれからに幸多からん事をお祈りいたします。くれぐれもお身体ご自愛ください。

襷を胸に

一学年主任
大久保 雅司



2017年1月3日、第93回箱根駅伝は、青山学院大学が史上6校目の3連覇を達成し、その幕を閉じました。ご存じのとおり、箱根駅伝は、その距離設定や箱根の山を走るなど非常に過酷なコースであるため、毎年、様々なドラマがある駅伝です。母校の襷を胸に走る精悍な姿や仲間を信じ懸命に走る姿に魅せられ、毎年楽しみにされている方も多いのではないかと思います。順位や個人の記録など華やかな部分も大きな見所ですが、選手たちにとっては「襷を繋ぐ」ことが非常に重要なこととなります。私は、この箱根駅伝を観戦するたびに、「襷を胸に走る」とことや「襷を受け取り、仲間へ託す」とことには、どのような意味があるのかを考えさせられます。

第五十二期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは甲府南高校での生活を終えられ、新たな一歩を踏み出しました。甲府南高校への思いを込めた襷を後輩たちに託し、同時にこれからの社会を担っていく人材としてそれぞれが襷を受け取ったのだと思います。自分が託された襷はどんな襷なのかを考え、大いなる使命のもと、甲府南高校の卒業生であるという誇りと自覚を胸に自己の人生を切り開き、よりよい社会を創造してくれることを期待しています。



「人工知能に想う」

生徒指導主事
赤池 宏己



ここ数年、人工知能の話題が新聞を賑わせています。自動車の自動運転やペットパールのようなロボット、ネット上で顧客に合った広告が自動的に飛び込んできたり「Go」のように様々なモノに通信機能を持たせ自動認識・自動制御するものなどが様々です。本来、人がより便利に効率よく、心地よい社会を創るために開発されてきたはずのもの、将来の仕事奪われるのではないかとといった不安要素に

なつてきていることも事実です。人工知能に対して人の強みは何だろうとよく考えるのですが、芸術科の私としては、「身体性」があげられます。科学技術の進歩で写真が現れ、ワープロが普及し、音響機器のデジタル化が進んできましたが、作品を創りたい、世に発信したいといった欲求を持っている人は増加傾向にあります。事実、ワープロが当たり前になつた

「グローバル化と格差社会」

進路指導主事
仲山 文昭



第五十二期卒業生、並びに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。昨年、大学入試を見ていける小論文でよく取り上げられる題材の1つに「グローバル化社会」があります。インターネットや交通機関の発達により、ますます世界は身近な存在となつており、世の中がより便利になり、住む世界が広がり、まさに地球規模での生活圏の拡大に繋がっていくと思われま

す。しかし、実際にはその「グローバル化」により持たされたものは「格差社会」であると言われています。世界の人口の半分と世界で最も裕福な8人の資産が同じという報道がありましたが、この格差はますます拡大する方向に向かっているそうです。経済学者のトマ・ピケティは「グ

今、なぜか書道やペン習字の人気は上がり調子です。音楽はテレビよりも生の演奏を鑑賞する「フエス」が主流となり、アートの世界では、デジタル化により技術的なハードルが下がってきたことが創作を後押ししています。周りを見渡せば、自動車があつても人はジョギングをし、早く走る競争までしています。人工知能に囲まれた人が負けたからといって囲基が廢れることはないでしょう。SNSのおかげで、わざわざ遠い日本への外国旅行者が倍増しました。人が持つ本能的な欲求「感動」「驚き」「共感」「満足」や身体が持つ「爽快

感」や身体が持つ「爽快感」や「気持ちよさ」「暖かさ」「痛み」などは所詮コンピュータは持ち得ないものです。よくキャリア教育で「創造力」が必要だと言われていますが、文系も理系もこの本能的な欲求と身体性を抑えた創造力を磨くことが大切なのではないのでしょうか。理系の方が就職に有利とか文系だと難しいとか、単純な考えで通用しない社会状況です。若い十代の皆さんは、固定概念に惑わされることなく、自分自身の適性や感性を見極めてそれを伸ばすことに集中してください。個々の成長があればそこにふさわしい仕事がついてくるはずですよ。

いいことであり、経済が開放され一段の成長をもたらし、格差拡大を放置する最大のリスクは、多くの人々がグローバル化が自身のためにならないとして、極端なナショナリズムに向かつてしまうことである。」と指摘しています。アメリカ合衆国ではまさにこれに呼応するかのようにトランプ氏が大統領に選出され、イギリスはEUを離脱するといった事態も起きています。世の中はこの先どうなっていくのか、予測するのは難しく混沌としていくことも考えられます。私は化学の教師ですが、自然科学の世界にも「エントロピーの増大」という概念があります。これは簡単に言うとうちの水の中にインクを垂らすと拡散していき、やがて反応や状態は進むべき方向へ進んでいくという法則ですが、世の中も行き過ぎを経ながら進むべき方向へ進んでいくのではないのでしょうか。いつの世もこれからの時代というのがない時代です。人の世は自然科学の法則のようにはいかないかもしれませんが、広く世の中を見つめて自分で考えて生きていくことが求められていくと思

「保護者による進路講話」

昨年の十月二十八日、一年生を対象に「保護者進路講話（親からのメッセージ）」が開催されました。この行事も八年目を迎え、十名の保護者の皆様に御協力いただきました。お仕事に関わる内容だけでなく、お話の題材も多岐にわたっていました。講師の方が今までの人生で体験されたことなども語られ、とても印象的でした。講師の進路選択にも参考になったのではないかと思います。お忙しい中、御協力くださいました保護者の皆様、ありがとうございました。

生徒の感想

・私は先生の講話を通して将来のために大切なことを多く学びました。特に印象に残っていることは、「コミュニケーション能力は大切」ということです。社会に出る、大人になるために、多くの人に会い、話すことがあり、そこで話さない、だまっていると前に進まず困ってしまいます。また、社会に出ると時間に左右されることも多くあります。そこで私は先生のお話を通して、今からできることとして、自分のもっている時間を計画的に使い、初対面の人や先輩と多く話し、そして多くの経験をしてみたいと思いました。多くの経験を多く、将来社会に出て正しい判断ができるようになりたいです。

・私はこの講座を受ける前、本当に政治は動かすことができるものだろうか、という疑問を持っていました。なぜなら、自分が将来選挙をするときに、一票では変わらないのではないかとこのことをどうしても考えてしまっていたからです。しかし講義の中でただ政治はどういったもので、どうすれば変えられるのか、という説明だけでなく、様々な実例をあげて説明してくださったおかげで、今では将来選挙に行こうと思えるようになりました。十八歳になったら選挙権を持ちます。そして選挙の際は、今回学んだことを踏まえて、一票を投じたいと思います。



＜お話しいただいた方々と演題＞

- 野澤 幸 様 「あなたの人生を支配する政治。でも、あなたは政治を動かすことができる」
- 鈴木 文 様 「人生で学んだこと、みんなに伝えたいこと」
- 志村 樹 様 「OH! NO! 梗塞 ～ 人生の寄り道～」
- 宮本 直 様 「小児科医から未来のパパやママに伝えたいこと」
- 加賀 彦 様 「二足のわらじ ～アーチェリー場経営と薬剤師の両立」
- 市川 美 様 「フルートと共に」
- 伊藤 直 様 「給与と利益と仕事の関係」
- 石倉 純 様 「人 ～自分を大切に～」
- 清水 美 様 「英語を使う仕事があったい！」
- 清村 恵 様 「サービス業から学ぶ感動づくり」
- 中村 成 様



「大切なことは、出発することだ」

教頭 長井 英人

写真家、星野道夫氏は1952年千葉県に生まれ、1996年に惜しくもヒグマ事故で43歳の人生を終えている。彼は1968年に慶応義塾高校へ入学、17歳で移民船アルゼンチン丸に乗り約2ヶ月間、アメリカを1人で旅し、1971年に慶応大学へ入学し探検部に入る。その後、21歳の時にアラスカ・シシユマレフ村でエスキモーの家族と一夏を過ごしている。次の一節は彼がアラスカでたった1人大自然の中でオーロラの写真を撮ろうとした時の記録である。「気温はマイナス50



度近くまで下がり、全てものが凍った。・・・それでも僕は写真を撮らなくてはならないので、カメラが凍らないように気をつけなければならなかった。・・・夜はカメラを腕に抱いて体温で温めながら寝た。・・・2週間後のある夜、1本の青白い光が北の空に現れた。その不思議な光は動き、動くにつれて、どんどん広がっていった。オーロラだ。まるで生き物のようだった。あまりにも美しく動くので音が聞こえるかと思うほどだった。夜けれどもそうではなかった。夜

「傾聴力」「主張力」「自己啓発力」

教頭 早川 保彰

私、現在、普通のヴァンフォーレファンである。スタジアムでの観戦、アウェイでの応援を理由にふらっと車で遠出をしたり、各会場のTV中継をザッピングしたり、週末の楽しみの一つになっている。そんな関係で、サッカー関連番組も頻繁に視聴している。現在のJリーグチェアマンの村井満さんと川崎フロンターレの中村憲剛選手の対談の中に興味深い内容があったので、紹介してみたい。



タイトルは「成功する選手の共通点は何か?」である。村井チェアマンがJリーグの新人研修の折に、2005年に入った選手について、15年までの10年間に彼らが歩んだキャリア

について調査結果を報告した。Jリーグに入ったばかりの選手たちは技術レベルにほとんど差はないが、10年経過すると、成功・不成功が明確になってくる。2005年の新人といえは、現日本代表の本田・岡崎選手の世代で、契約担当者、指導者、クラブ関係者に「どういう能力が優れていたか」約50項目のアンケートである。上位3つは、「傾聴力」「主張力」「自己啓発力」であった。まとめると、傾聴して、自分の中で自己努力を重ね、それを主張する。その3つの力ということになるだろう。中村

空もオーロラも何の音も立ていなかった。静かだった。僕だけがこの広大なアラスカ山脈の中で生きていた。僕はたった1人で大きな劇場にいて舞台を見ているような気持ちだった」

(『Hoshino Michio Shooting the true Alaska』)

彼は少年時代から、自分の好きなことに一直線に突き進み、その人生を駆け抜けたような人だった。星野さんからの次の言葉を贈りたい。「僕らの人生というのはやはり限られた時間しかない。本当に好きなことを思いきりすることだとは、すごく素晴らしいことだと思います」そして「大切なことは、出発することです」

選手も、「技術は練習すればするほど伸びる。でも向上心が無いと、それを継続できない。競争がある中で、心が折れてしまう選手もいる。村井さんが名前を挙げた圭佑やオカは、日本代表に入ってきたときに確かにその3つを持っていましたね。」とコメントしている。さらに、「圭佑もオカも素直でしたね。逆にダメになっていく人は、プライドが高くて人の話が聞けない。自分にはこういう型があるからと言って、監督やコーチのアドバイスを生かすことができない。そういう選手は1度の挫折で簡単に心が折れて、いつの間にかフェードアウトしてしまう。」と続けている。

これも「生きる力」だなーと関心しながら、TVのスイッチを切った。